

モモの加温栽培による促成栽培技術体系の確立

福島県果樹試験場栽培部
平成13年度試験研究成績書

1 部門名

果樹—モモ—作型・栽培型
分類コード 04-02-18000000

2 担当者

渡邊栄子・高野靖洋・志村浩雄

3 要旨

モモの加温栽培による促成栽培について、加温開始時期、温度管理体系、果実生産性について‘あかつき’を中心に検討した。

- (1) ‘あかつき’の低温要求量は、7.2℃以下の温度域に1,000時間以上遭遇する必要が認められた。また、過去7年間の休眠期の気温から判断すると、ハウスの被覆時期は1月10日以降が良いと判断された。
- (2) ハウスの温度管理体系は、2000年、2001年の温度管理別の生育経過から推考すると、被覆後(夜温:5℃～5日間)→加温開始(昼温:15℃—夜温:7℃～20日間)→発芽(15℃—10℃～10日間)→開花(20℃—10℃～10日間)→満開(20℃—10℃～20日間)→落花(25℃—10℃～30日間)→硬核期開始(25℃—15℃～20日間)→第3肥大期(27℃—15℃～15日間)→着色開始期(27℃—18℃～15日間)→収穫期(27℃—18℃～15日間)という体系で管理した場合、被覆から145日、満開後100日で収穫が可能と考えられた。また、1月10日に被覆した場合満開は2月24日頃となり、6月4日頃からの収穫が可能と推察された。
- (3) 加温栽培の果実生産性については、平均果重が220g程度の場合、10a当たり2.5t程度確保された。また、果実品質については着色が露地栽培に比べて劣ることから、有袋栽培が望ましいと判断された。

4 その他の資料等

なし